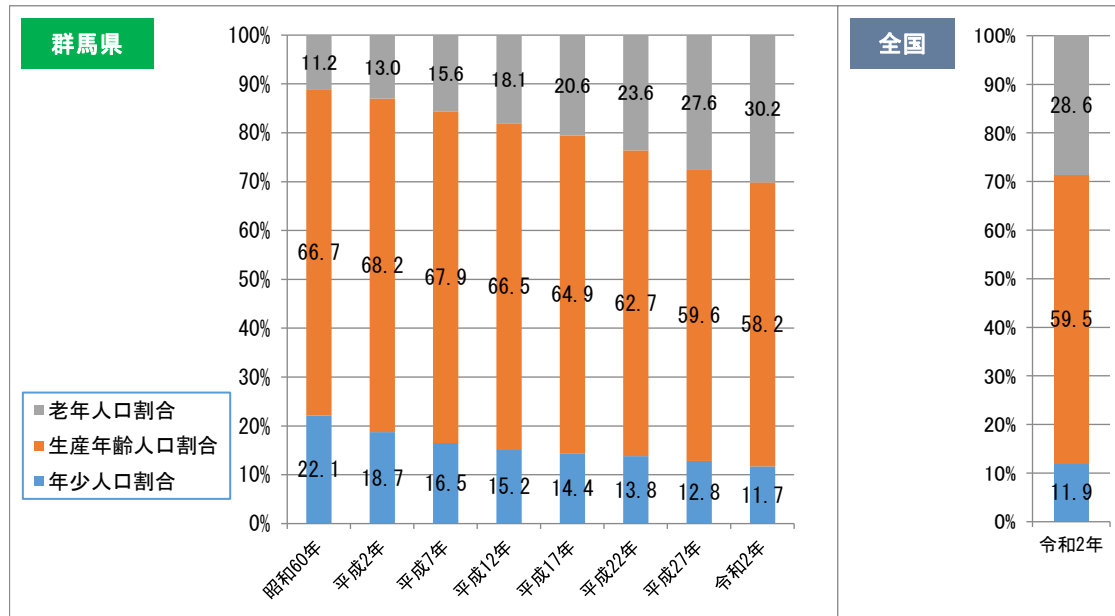


群馬県の現状（令和6年度）

1 人 口

総務省統計局人口推計による令和3年10月1日現在の群馬県の人口は、192万7千人（全国18位）であり、また、令和2年総務省国勢調査による人口に占める年齢別人口の割合は、0～14歳の年少人口割合が11.7%、15～64歳の生産年齢人口が58.2%、65歳以上の老年人口が30.2%であり、65歳以上の人口割合は、平成27年と比べ2.6ポイント増加している。

図1 年齢区分別人口割合の推移



2 就業状態

群馬県の労働力人口は1,007,967人で、労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）は61.0%（全国60.7%）である（令和2年総務省「国勢調査」）。

3 産業

(1) 事業所数および従業者数の状況

群馬県の民営事業者数は84,119事業所で全国18位である。また、群馬県の民営事業所における従業者数は、889,631人で全国17位である（令和3年「経済センサス活動調査」）。

(2) 産業分類別事業所数及び従業者数

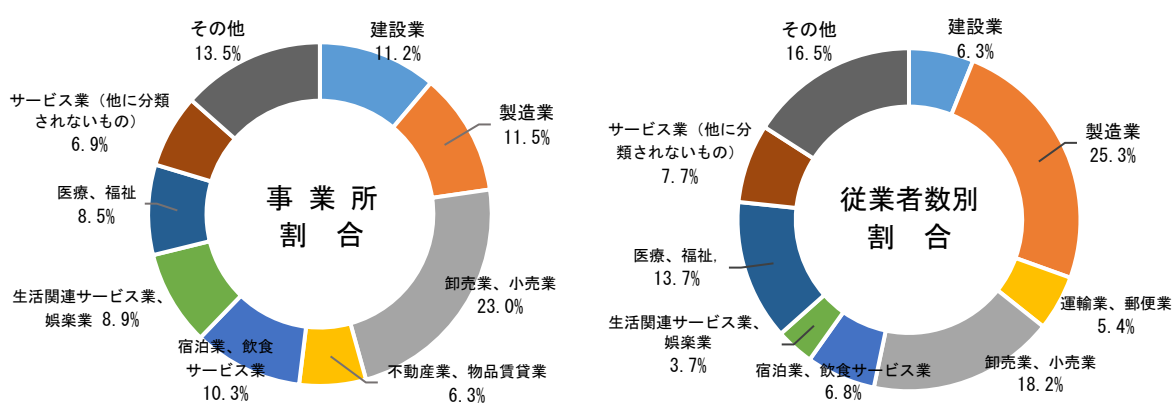
<事業所数>

産業大分類別に事業所数をみると、「卸売業、小売業」が19,317事業所（全産業の23.0%）と最も多く、次いで「製造業」9,712事業所（同11.5%）、「建設業」が9,390事業所（同11.2%）となっており、上位3産業で全産業の4割5分を占めている（令和3年「経済センサス活動調査」）。

<従業者数>

産業大分類別に従業者数をみると、「製造業」が224,642人（全産業の25.3%）と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が162,118人（同18.2%）、「医療、福祉」が121,842人（同13.7%）となっており、上位3産業で全産業の6割弱を占めている（令和3年「経済センサス活動調査」）。

図2 産業大分類別事業所・従業者割合

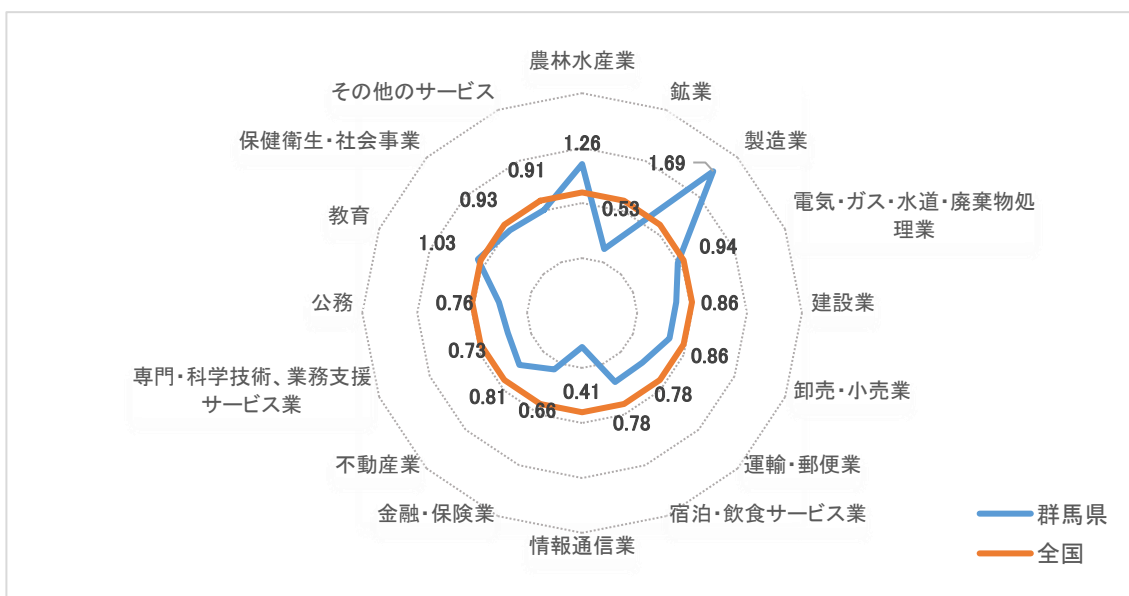


4 県民経済計算

令和3年度の群馬県の県内総生産（名目）は9兆1,410億円となっており、前年比5.4%の増加となった。また、一人当たりの県民所得は3,187千円となっている。（内閣府経済社会総合研究所「県民経済計算（平成23年度—令和3年度）統計表」）。

また、令和3年度の製造業の特化係数（全国の産業構造の構成比を1とした場合）は1.69と全国を大きく上回る（群馬県「令和3年度県民経済計算の概要」）。

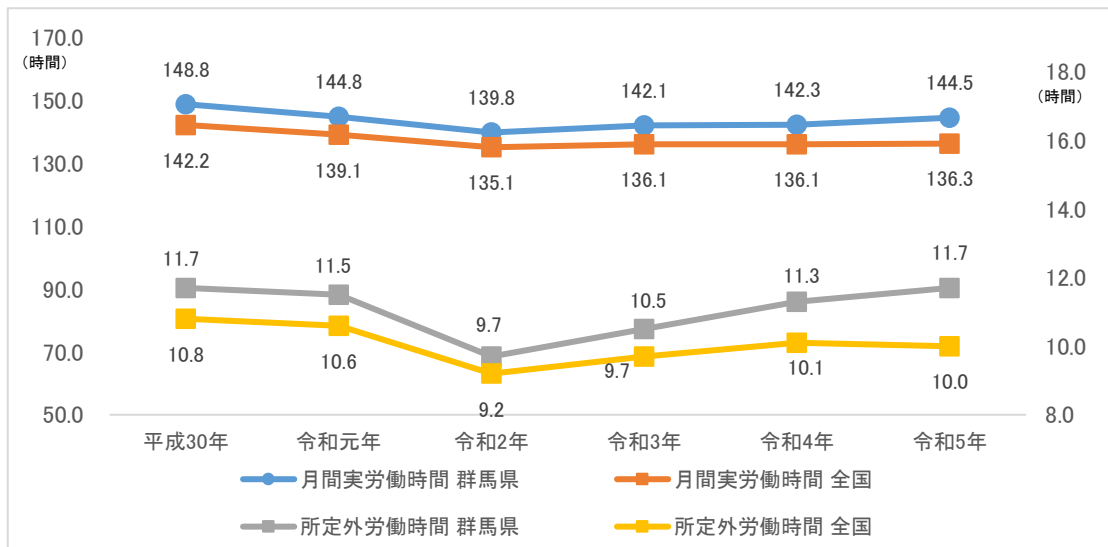
図3 特化係数（令和3年度）



5 労働時間

群馬県の令和5年の常用労働者1人平均月間実労働時間を全国と比較すると、144.5時間と全国より8.2時間長く全国平均を上回る。また、所定外労働時間についても、11.7時間と全国より1.7時間長く、3年前と比べると全国・群馬県共に増加している。（厚生労働省「毎月勤労統計調査（地方調査）」（事業所規模5人以上））。

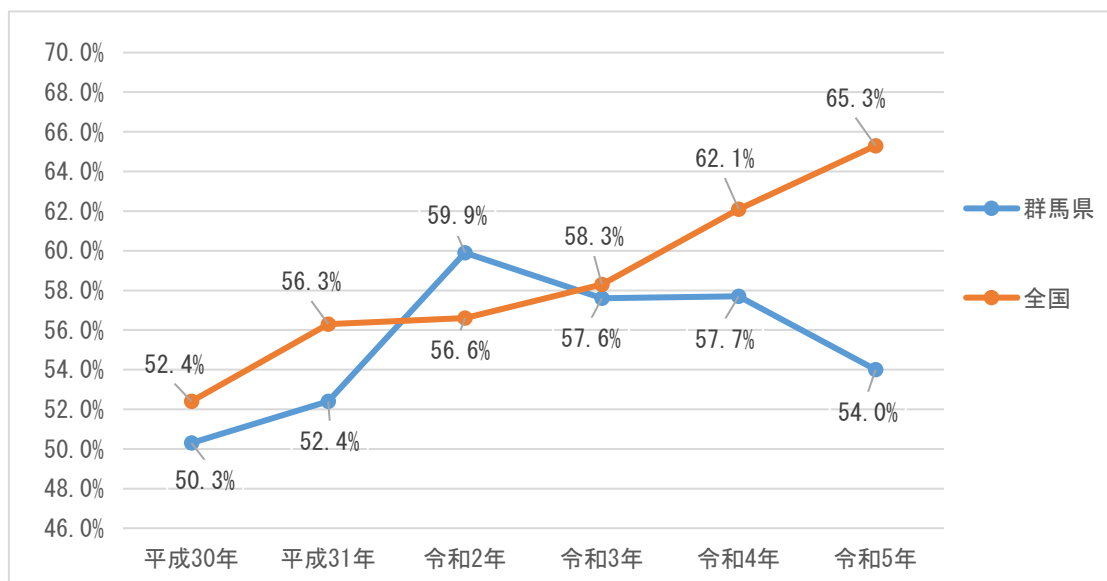
図4 労働時間の全国との比較



6 年次有給休暇

群馬県の年次有給休暇取得率は、令和2年度は全国平均を上回ったものの、令和3年度以降の取得率は低下傾向にあり、全国平均を大きく下回っている。（令和6年就労条件総合調査の特別集計を基に厚生労働省雇用環境・均等局総務課雇用環境政策室が作成）。

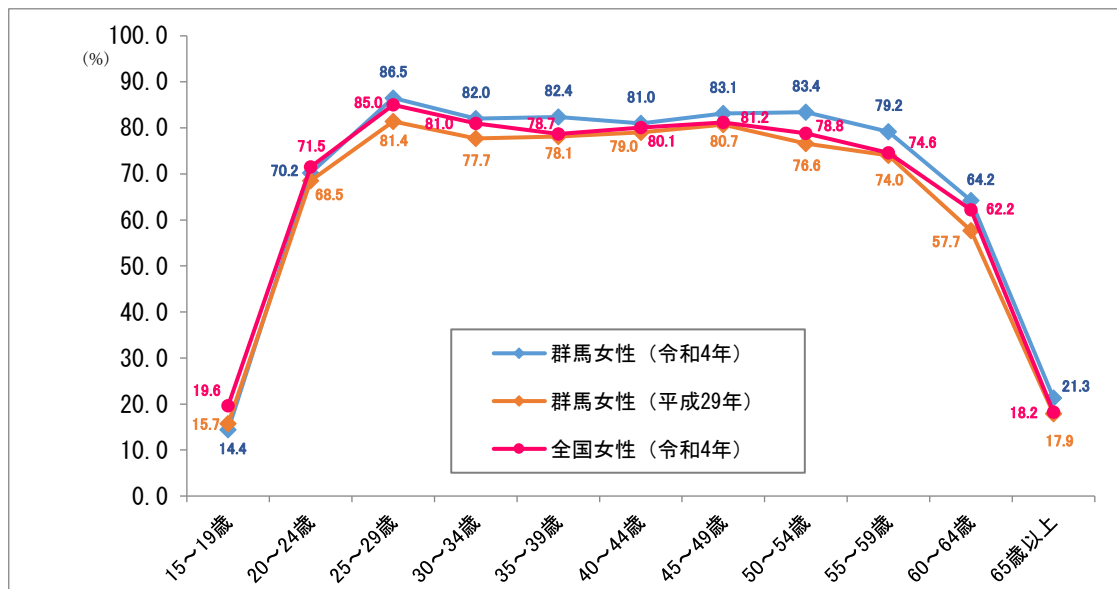
図5 年次有給休暇取得率の推移



7 女性労働者

群馬県の女性の有業率は全ての年齢階級別でほぼ全国より高く、台形型に近い形を示している。（令和4年総務省「就業構造基本調査」）。

図6 年齢階級別女性の有業率



8 短時間労働者

パートタイム労働者（アルバイトを含む）は、22万9千人で雇用者総数の24.6%を占め、雇用者に占めるパートタイム労働者の割合は増加している（令和4年総務省「就業構造基本調査」）。

図7 短時間労働者数の推移

